第 63 回全国大会のご開催、誠におめでとうございます。
また、長きにわたり、心臓病を抱える子どもたちとそのご家族の支援、ならびに医療・福祉の向上にご尽力されている皆様に、心より敬意を表します。
本大会が、患者・ご家族・医療従事者・行政・地域社会の皆様を結ぶ貴重な機会となり、今後の支援体制や啓発活動がさらに発展することを心より願っております。
共に頑張りましょう。

一般社団法人ゼンコロ
会長　中村敏彦

第 63 回「全国心臓病の子どもを守る会」全国大会によせて

全国大会の開催、まことにおめでとうございます。
医療が進み、心臓に疾患があっても長生きできる時代になったことは喜ばしいことでありますが、働くこと、暮らしていくことに関しての一人ひとりに必要な合理的配慮の提供は、まだ理解が不足している状況だということが今大会のご案内から感じられます。
私たちも、同じマイノリティな存在の家族として、社会に一人ひとりに必要な合理的配慮の必要性を訴えていかなければならないと考えています。
今回のテーマ「心臓病者の就労と自立」~重症疾患や重複障害の患者の希望のために~
様々な情報の共有がなされ、お一人おひとりが、夢や希望を持って生きていかれる社会になるよう共に活動していきましょう。

全国手をつなぐ育成会連合会
会長　佐々木 桃子

メッセージ

貴会の「第６３回全国大会」の開催を心よりお慶び申し上げます。

１９６３年の設立以来、６２年の長きにわたって医療講演や交流会、また療育キャンプ、クリスマス会の開催などを通じて先天性心疾患をもつ子供たちとそのご家族を支え続けてこられたご尽力に、心より敬意を表します。

また、早くから全国の各患者団体との連携を積極的に進められ、我が国の患者運動をけん引してこられたことに感謝を申し上げます。

さて、私たち患者を取り巻く医療と福祉、年金、介護などの施策は今後どうなっていくのか、不安を抱かざるを得ない状況となっています。私たちは、当事者としてこのような情勢について課題を明らかにしていくことを通じて、今後の取り組みにつなげていくことが求められています。

そういう意味でも、一般就労や障害者雇用では働くことが難しい心臓病者の働く場や生活の状況における課題を検証し、今後の活動につなげていくことをテーマとする今大会は、たいへん意義深いものがあると考えます。

私たちは疾病を超えて、よりいっそう連携を強め、豊かな医療と福祉、社会保障が実現されることを求めて、力を合わせて活動を進めてまいりましょう。

大会のご盛会と、貴会のますますのご発展を心より祈念し、連帯のメッセージとします。

２０２５年１０月 26日

一般社団法人全国心臓病の子供を守る会
会長　大澤　麻美 様

一般社団法人全国筋無力症友の会
代表理事　山崎　洋一

第 63 回全国大会へのメッセージ

第 63 回全国大会のご盛会、心よりお祝い申し上げます。

長年にわたり、心臓病をはじめとする重症疾患や重複障害を抱える子どもたちとそのご家族に寄り添い、希望をつなぐ活動を続けてこられた皆さまに、心から敬意を表します。

本大会のテーマである「就労と自立」は、当会の会員や関係者にとっても大きな関心事であり、社会の理解と支援が一層必要とされる分野です。本大会を通じて、多様な立場の声が共有され、誰もが安心して将来を描ける社会の実現に向けて、新たな一歩が生まれることを願っております。

全国心臓病の子どもを守る会の皆さまのご健勝とご発展を祈念しつつ、連帯の思いを込めてお祝いの言葉とさせていただきます。

一般社団法人 全国肢体不自由児者父母の会連合会

会長　清水 誠一

一般社団法人全国心臓病の子どもを守る会第 63 回全国大会の開催おめでとうございます。

一般社団法人全国心臓病の子どもを守る会第 63 回全国大会が、「心臓病者の就労とそれぞれの自立～重傷疾患や重複障害の患者の希望のために～」をテーマに盛大に開催されますことを心から、お慶び申し上げます。

大澤麻美会長様はじめ関係者の皆様のたいへんなご尽力により、本日の晴れの全国大会を迎えられたことに敬意を表します。

私ども一般社団法人日本筋ジストロフィー協会は、貴会及び NPO 法人全国ことばを育む会様とともに、全国病弱・障害児の教育推進連合会として、共に活動を続けており、貴会は、私どもと想いを同じくし、堅い絆で結ばれた仲間でございます。

小児期発症の心臓病の患者様を会員とされる貴会におかれましても、多くの皆様が成人期を迎えられ、「働く場」の問題や「社会の中での役割」の持ち方が大きな課題となりつつあるように思われます。このような中で、「心臓病者の就労とそれぞれの自立」をテーマに掲げ、この大きな課題に真正面から取り組もうとされる貴会の姿勢と気概に心からエールを送りたいと思います。

一年の節目となる本大会の開催を機に、貴会の更なる発展をお祈り申し上げますとともに、当協会との引き続きの友好関係をお願い申し上げます。

第 63 回全国大会の開催、誠におめでとうございます。

令和 7 年 10 月 26 日

一般社団法人　日本筋ジストロフィー協会
理事長　竹田　保

令和 7 年10月 26 日

一般社団法人　全国心臓病の子どもを守る会
会長　大澤　麻美　様

一般社団法人 日本難病・疾病団体協議会
代表理事　大黒　宏司

第 63 回全国大会メッセージ

全国心臓病の子どもを守る会、第 63 回全国大会の開催、誠におめでとうございます。

長きに亘り、貴会が心臓病児・者の幸せを願い、患者及び家族への交流の場の提供や療養生活の質の向上に関する情報発信など、医療および福祉の環境改善を促進するための熱心な活動を展開されてきたことに、心から敬意を表します。

さて、本年のテーマ「心臓病者の就労とそれぞれの自立～重症疾患や重複障害の患者の希望のために～」はまさに時機を得たテーマであると思います。医療の進歩に伴い、心臓病をはじめとする小児慢性疾患の多くの子どもたちが、成人期を迎えることができるようになりました。しかしその一方で、成人期以降も病気と付き合いながら、就労をはじめ社会参加していくことには、まだまだ多くの課題があります。障害者の自立と家族の支援を積み上げてこられた講師の皆様からのご講演や患者・家族の体験談の共有を通じて、課題が明らかにされ、この全国大会が改善に向けた取り組みの第一歩となることを期待しております。

JPA は今後も、心臓疾患児者やご家族が安心して生活できるために、皆様と共に歩み続けます。第 63 回全国大会のご盛会と貴会のますますのご発展をお祈り申し上げます。

この度の、一般社団法人全国心臓病の子どもを守る会第 63 回全国大会の開催、誠におめでとうございます。

みなさまの長きにわたる幅広い活動に、あらためて敬意を表させて頂きます。

今回のテーマである“就労と自立”は、成人期を迎える心臓病や小児がん等の重症疾患を抱える患者・経験者のみならず、親・きょうだい家族にとっても大変重要なテーマであると考えており、本日の大会が実りあるものになることを祈念しております。

私ども、同じく重い病気を抱える子どもやご家族のための活動を続ける団体として、今後とも皆様とご一緒に手を携えて参りたいと考えており、引き続きのご指導ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

公益財団法人　がんの子どもを守る会

理事長　山下公輔

第６３回全国大会の開催を祝し、心よりお喜び申しあげます。

関係各位の並々ならぬご尽力に敬意を表し、大会のご成功を祈念いたします。

貴会のご盛会をお祈りするとともに、皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

公益社団法人日本てんかん協会

会長　梅本　里美

「第 63 回全国大会　心臓病者の就労とそれぞれの自立
～重症疾患や重複障害の患者の希望のために～」へのメッセージ

本日、一般社団法人全国心臓病の子どもを守る会「第 63 回全国大会　心臓病者の就労とそれぞれの自立～重症疾患や重複障害の患者の希望のために～」が盛大に開催されますことを、心からお慶び申し上げます。

2010 年 7 月 17 日に臓器の移植に関する法律の一部を改正する法律が全面施行されてから 15 年が経ちました。改正法では家族の承諾のみによる脳死下臓器提供及び 15 歳未満の小児からの脳死下臓器提供が可能となりました。2024 年においては、脳死下での臓器提供が 130 例、心停止下での臓器提供が 8 例となり、583 名の方々に移植がされました。

しかしながら、当社団に 16,000 名を超える移植を希望する患者さんが登録されていることを考えると、移植件数はまだまだ少ないのが現状です。私ども公益社団法人日本臓器移植ネットワークは、臓器移植医療の推進発展のため、一層の努力を重ねてまいります。

本日開催されます本会が契機となりまして、皆様のあたたかいご理解とご協力により善意の提供の輪が広がり、一人でも多くの患者の方々がお元気になられるよう、本会の実り多い成果とご参集の皆様のご健康を心からお祈り申し上げます。

2025 年 10 月

公益社団法人　日本臓器移植ネットワーク
理事長　　横田　裕行

一般社団法人全国心臓病の子どもを守る会
会長　大澤　麻美　様

第 63 回全国大会の開催おめでとうございます。
今年のテーマ『心臓病者の就労とそれぞれの自立～重症疾患や重複障害の患者の希望のために～』は、現在の社会で就労をめざす重症疾患や他の障害をあわせもつ心臓病者にとって、とても意義あるテーマだと思います。
昔に比べれば、障害がある人の就労の場が増えてきたり、制度も進んできたと感じます。しかしまだまだ年収が少なかったり、治療を継続しながらの就労に理解がなかったりと貴会のアンケート結果を鑑みても課題は多いと感じます。
今回の大会が、すべての心臓病者が自立し心豊かな日常生活を送れる一助となることを願ってやみません。
障害名は違っても、障害がある人達が社会で希望をもって生きるための活動を共に進めていければと存じます。
最後ではございますが、貴会のますますのご発展を祈念いたします。

公益財団法人日本ダウン症協会
代表理事　玉井　浩

第 63 回「全国心臓病の子どもを守る会」全国大会によせて

一般社団法人　全国心臓病の子どもを守る会　第 63 回全国大会「心臓病者の就労とそれぞれの自立～重症疾患や重複障害の患者の希望のために～」の開催、誠におめでとうございます。

守る会の皆様方のたゆまぬご努力が、心臓病の子どもたちやご家族の方々の大きな励みとなっていることに、心より敬意を表します。今大会が、子どもたちが社会において自分の役割を持ち、豊かな日常につながるよう祈念申しあげ、メッセージといたします。

社会福祉法人　全国社会福祉協議会
障害関係団体連絡協議会　会長　阿部　一彦

メッセージ

一般社団法人　全国心臓病の子どもを守る会第６３回全国大会の開催、おめでとうございます。また、日頃より私ども障全協の運動に対し、心温まるご支援ご協力に深く感謝します。

さて、混沌とした社会・政治状況の中で、長引く物価高騰問題や失業問題など国民生活全体に重くのしかかる諸問題の解決の方向が見出されず、国民の不安や怒りは日に日に募るばかりです。とりわけ、先の参院選後の国政においては、衆議院・参議院ともに与党の過半数割れがこれまでにない事態を引き起こし、国民本位の政治が本当に実現されるのか懸念する声が広がっています。

また、社会保障政策と公的責任という点で、今年５月に発表された財務省「建議」、それをベースにまとめられた「骨太方針２０２６」の社会保障関係部分をみると、「全世代型社会保障の構築」、「持続可能な社会保障制度の実現」、そして「給付と負担のアンバランスの是正」が繰り返し強調されており、今後のさらなる社会保障改悪が懸念されています。来年の通常国会には、利用料２割、ケアプランの有料化などの改悪が検討されている介護保険法「改正」の準備がすすめられているなど、障害者はもちろん、多くの国民・高齢者にこれまで以上の負担と犠牲を押し付けようとしています。

社会保障の基本は、共助・社会保険方式ですと言い切る政府・厚生労働省に対し憲法２５条・生存権を対置させ、あくまでも公的責任を追及していくことが今日ほど求められている時はありません。憲法を無視し、なし崩し的な改革を絶対に許すことはできません。

私たち障全協は、みなさんとともに積極的に運動を展開し、諸権利の確立、諸課題利の達成をめざして奮闘する決意です。今大会が貴団体にとって、障害者・家族関係者の期待に応える組織・運動を前進させるための新たな出発点になることを心から期待します。共にがんばりましょう。

２０２５年１０月２６日

障害者の生活と権利を守る全国連絡協議会
会長代行　白沢　仁

一般社団法人　全国心臓病の子どもを守る会
　会長　大澤　麻美　様

第６３回全国大会開催おめでとうございます。
ともに創る“わたしらしい”くらしと仕事
心臓病者の就労とそれぞれの自立～重症疾患や重複障害の患者の希望のために～

　すてきな、そして大切なテーマです。毎年、年を重ねるごとに、考えなくてはならないことは増えて来ています。川崎病の子どもで、後遺症をもつ子供たちも、様々な悩みを抱えています。
　川崎病の子供をもつ親の会も９月１４日に第４４回総会を終えました。守る会の皆様のお知恵を拝借しながら、これからもすべての子どもたちのために歩き続けていきます。今後共よろしくお願い致します。

川崎病の子供をもつ親の会
代表　浅井幸子

全国心臓病の子どもを守る会メッセージ

第63回全国大会、おめでとうございます。

貴団体が、平素より心臓病の患者・障害者、及びその家族の方の生活や権利を守るために奮闘されていることに敬意を表します。

今回の大会にあたっての問題意識である「親の介護問題」や「親なきあと」の問題は、心臓病者やその家族だけにとどまらず、広く障害のある人やその家族の今日的課題でもあります。今後も貴団体と一緒に考え合っていければと思います。

全国大会が盛会となることをお祈り申し上げます。

2025年9月29日

全国障害者問題研究会

全国委員長　越野和之

一般社団法人　全国心臓病の子どもを守る会　御中

全国心臓病の子どもを守る会第63回全国大会メッセージ

祝　一般社団法人全国心臓病の子どもを守る会第６３回全国大会お慶び申し上げますとともに、貴団体の活動に心から敬意を表します。平素から全国多発性硬化症視神経脊髄炎友の会の活動にご理解ご協力賜り深く感謝を申し上げます。

近年、ウィルス感染症や地震等自然災害の増大も知るところとなっております。我が国においても少子高齢化に伴う余波が政策制度に波及して国民一人ひとりに負担が重くのしかかってきております。

とりわけ、高額療養費制度の負担上限額引上げは患者家族にとって危急の問題です。超党派の議員連盟、患者団体の要望を転じて政府は高額療養費制度の負担上限額引上げは凍結となっております。しかし、そこで安心してはならず、凍結ですから解凍はあります。必ず額療養費制度の負担上限額引上げの動きが再燃します。私たちは問題解決するために本質を見極めて逆転しない正義を選択することが重要です。

私たち患者・家族は個々では弱いものです。その個々の点と点を繋いで線と線にしましょう。線と線を合わせて面にしましょう。そして面と面を重ねてカタチにすれば大きな力やうねりになります。それが全国心臓病の子どもを守る会の原動力になり、明日への道が拓けると存じます。

つきましては、全国心臓病の子どもを守る会第６３回全国大会を契機に、すべての患者・家族が一層の豊かさを感じられることと、貴団体の趣旨に賛同されます一人ひとりのご健勝と益々のご活躍されることとをご祈念申し上げ、ご挨拶のメッセージとさせていただきます。

2025年（令和7年）10月26日

全国多発性硬化症視神経脊髄炎友の会

会 長　　土橋　隆史

一般社団法人　全国心臓病の子どもを守る会
会長　大澤　麻美　様

皆様におかれましては、ますます御清祥のこととお慶び申上げます。
日頃からの貴団体の活動につきまして、心より敬意を表します。
一般社団法人　全国心臓病の子どもを守る会　第６３回全国大会　「ともに創る“わたしらしい”くらしと仕事」御開催にあたり、一言御祝いを申上げます。
重症疾患や発達障害などを併せ持つ方を含め、心臓病者の働く場の選択肢と自立の場について、その課題に迫り改善に向けた活動を継続される皆様の思いは、多様な子どもたちのそれぞれの豊かな生活にとって欠かすことのできない大切なものです。
病気に対する不安に加え、大雨や地震などの自然災害に対する対応を考えますと、様々な障害を抱える子どもたちを支える保護者の皆様や周りの大人による共通理解と連携がますます重要であると考えます。
貴団体が全国大会を続ける意義は、とても大きく尊いものであり、私ども全国特別支援学級・通級指導教室設置学校長協会と致しましても、全国の障害児・者への理解に努めるとともに、他団体の皆様との連携を深めるなど、一層の努力をしてまいりたいと思います。
全国の心臓病の子どもたち一人一人の自立に向けて、保護者の方々が笑顔で子育てできますよう、医療機関や学校・療育機関が協力し合って、よい学びの場となり、第６３回全国大会が成功のうちに終えられますことを祈念し、御祝いの言葉とします。

全国特別支援学級・通級指導教室設置学校長協会
会長　大関　浩仁

第 63 回全国大会へのメッセージ
ともに創る“わたしらしい”くらしと仕事

一般社団法人　全国心臓病の子どもを守る会
会長　大澤麻美様

心臓病者の就労とそれぞれの自立 ～重症疾患や重複障害の患者の希望のために～をテーマに開催される第 63 回全国大会に対しまして心よりお祝い申し上げます。

医療の進歩により多くの心臓病者が成人期を迎える一方で、重症疾患や発達障害を併せ持つ方々が、働きたくても働けない現実に直面していることに深く心を寄せています。

「働くこと」は、単なる収入の手段ではなく、自分らしく生きるための大切な社会参加のかたちです。誰もが安心して自分の力を発揮できる場があること、それこそが真の共生社会の礎だと感じます。

本大会が、心臓病者の方々の声を社会に届け、制度や支援のあり方を問い直す貴重な機会となることを願っています。そして、すべての人が「わたしらしい」くらしと仕事を実現できる未来に向けて、守る会の皆さまの活動がさらに力強く広がっていくことを、心から応援しています。

2025 年 10 月 26 日

全国特別支援教育推進連盟
理事長　岩井　雄一

一般社団法人全国心臓病の子どもを守る会
会長　大澤　麻美様

第６３回全国大会の開催にあたり、心よりお祝い申し上げます。大会の成功と貴会の益々のご発展を祈念し、連帯のご挨拶を申し上げます。
重度の障害を持つお子さんたちの成長と教育の保障は、私たち医療従事者も皆様と共に取り組むべき重要な課題であると認識しております。また、成人後の就労や所得の確保は、障害年金をはじめとする所得保障の充実とあわせ、社会全体で解決すべき喫緊の課題です。私たち医師・歯科医師は、全てのお子さんがいつでも・どこでも安心して医療を受けられるよう、国民皆保険制度を守り発展させるために活動しております。この点においても、皆様と固く手を取り合ってまいりたいと存じます。本大会が実り多きものとなりますことを心よりお祈り申し上げますとともに、私たちも皆様と共に歩んでいく所存です。

全国保険医団体連合会
会長　竹田　智雄

VERY CARD® 懸賞電報
懸賞ナンバー【5ＬＥ77305】
応募期限：お届け日より180日
詳細はこちら⇒www.verycard.net

全国心臓病の子どもを守る会
第６３回全国大会へのお祝いとメッセージ

全国心臓病の子どもを守る会 第６３回全国大会の開催にあたり、全日本教職員組合障害児教育部からお祝いと連帯のメッセージを送ります。

心臓病の子どもたちの命と生活を守り、豊かな成長のために長きにわたって取り組まれていることに、心より敬意を表します。また、第63回全国大会の開催をお慶び申しあげます。

さて、最初に特別支援教育の現場の課題についていくつか述べます。私たちの運動が実り「特別支援学校設置基準」が制定され、2023年の4月1日より全面施行されました。施行以降に開校した学校は設置基準が適用されていますが、すでに児童生徒数がいっぱいになり、教室不足状態になっています。さらに既存校は設置基準の適用外であり、教育環境が改善された自治体はほぼありません。貴会が要望している通り、医療と連携がとれた病弱特別支援学校や、特別支援学級は大幅に増設されなければなりません。加えて、高校生の入院期間中の教育の空白問題も解消すべき人権侵害です。

また、「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律」も２０２１年度に制定されましたが、学校現場での看護師配置はまったく不十分で、登下校や校外行事において保護者の付き添いが条件とされている自治体が圧倒的に多数です。２０２６年の概算要求では医ケアのための看護師配置予算が前年度より増額して計上されました。これは貴会はじめ当事者・保護者運動の成果でありますが、拠点校方式などのように複数の学校をかけもちすることも多く、看護師当人の負担も増大しています。医ケアを必要とする子どもたちが安心して地域の学校に通えることと、保護者付き添いなどの負担をなくしていくことを実現するために、引き続きねばり強い運動をともにしていきましょう。

大会のテーマ「心臓病者の就労とそれぞれの自立～重症疾患や重複障害の患者の希望のために～」は、私たちの願いとも共通です。障害者権利条約の総括所見でも勧告された通り、労働に携わる権利や職業選択の自由などの保障がこの国はとても立ち遅れています。どのような疾患や障害があろうとも、社会の中での自立したくらしが保障され、自分の希望と納得の労働に就き、生きる喜びを実感して生活していくことは、なにより大事なことです。しかしその一方で、優生思想や多様性を排斥する声が台頭し、懸念される情勢が生じています。「自己責任」を押し付けない、誰もが暮らしやすい社会が一歩ずつ実現することをめざして、今後もともに取り組んでいきましょう。

全国心臓病の子どもを守る会 第６３回全国大会の成功を心からお祈りして、メッセージとさせていただきます。

２０２５年１０月２６日　　全日本教職員組合障害児教育部長　村田　信子

一般社団法人　全国心臓病の子どもを守る会
会　　長　　大澤　麻美様

メッセージ

一般社団法人　全国心臓病の子どもを守る会の皆さん、第 63 回記念全国大会「心臓病者の就労とそれぞれの自立～重症疾患や重複障害の患者の希望のために～」の開催おめでとうございます。

会創設以来、長年にわたり活動され、このたび、63 周年を迎えられるとのこと、心よりお祝い申し上げます。心臓病児・者の方々やその御家族が抱える様々な問題について、各分野の専門家の皆様も日頃より御尽力頂いていることに、心から敬意を表します。

日々、「命」と、向き合いながら成長し成人後も生活をしていく中で福祉的就労を選択せざる得ない実態が多いことや就労年収も少なく患者の生活は家族が支えているといった現状や「患者の親の介護問題」「親なきあとの生活」といった不安も大きいとの問題提起もありました。

私ども全医労の仲間が働く国立病院も今も医療・介護・保育の現場も含め厳しい状況が続いていますが、国民の命を守るため日々奮闘しています。引き続き公的医療機関を支え地域医療を守り続けるため、他の医療機関では実施が困難な分野をセフティーネットとして支える重要な役割を担っている国立病院の機能強化を求めた国会請願署名が今年も請願採択されました。具体化をするために今年も取り組んでいきます。

心臓病児者の皆さんの病児・者本人、親、支え続けている方々と一緒に、自分らしく生きていけますように、生きる勇気を育むよりどころとなり続けることを心より祈念申し上げメッセージとさせていただきます。

2025 年 10 月 26 日

全日本国立医療労働組合
　委員長　前園　むつみ

メッセージ

一般社団法人　全国心臓病の子どもを守る会第 63 回　全国大会に寄せて

障害者権利条約の実現に向けてともに手を携えて

第 63 回全国大会の開催，おめでとうございます．これまでの活動年表を拝見すると，ほんとうにご家族と当事者が力を合わせ，一歩一歩必要な制度や支援を勝ち取ってきたその努力が，今の貴会の土台にあることを学びました．皆さんの活動の積み重ねの大きさを実感します．まさに医療と福祉の両面の諸制度を充実させることで「いのち」を守り，つないできたのだと思います．

そして，今年度日本障害者協議会（JD）の仲間となっていただき，またご一緒に活動できること心よりうれしく，感謝申し上げます．私たち日本障害者協議会は，障害者権利条約を大切にした活動を展開しています．学ぶことはもちろんですが，障害のある人の実態やニーズを障害者権利条約に照らして，課題を明らかにし，政策提言や社会に広く訴えかけていく運動が基本です．今年の 3 月の JD のセミナーでは，心疾患のある人たちの所得保障の課題をお話しいただき，生活実態調査のこと，障害年金受給が困難な状況であることも伺いました．

さらに所得保障制度の脆弱さ，家族依存が日本の福祉制度の根本課題であり，共通課題です．日本の障害福祉に関する諸制度の多くが「障害の医学モデル（障害を自己責任とする考え方）」に立脚しており，障害者権利条約が求める「社会モデル/人権モデル」に転換していくことが求められます．そのためには障害分野がひとかたまりになっていくことではないでしょうか．そして，障害者権利条約が大事にしている「他の者との平等」をどう実現していくのか，共に手を携え，活動・運動していきたいと願っています．これからもともに歩んでいきましょう．

2025.10.20

認定 NPO 法人　日本障害者協議会
代表　藤井克徳

一般社団法人　全国心臓病の子どもを守る会
会長　大澤　麻美　殿

メッセージ

全国心臓病の子どもを守る会　第63回全国大会の開催にあたり、心より連帯のご挨拶を申し上げます。

従前から人手不足が言われてきた医師、看護師、薬剤師に止まらず、医療現場で働く職種全般にわたり人手不足が続き、地域医療・介護のサービス提供に影響を及ぼしています。

日本医労連の2025年「看護職員の入退職調査」では、約6割の施設で退職者数が採用者数を上回り、4割の施設で必要な看護職員数を確保できていませんでした。人手不足解消の見通しが立たない状況が続いています。

ケア労働者の賃上げが不十分で、離職する職員が後をたたず、現場の人手不足に拍車がかかり、地域の医療・介護のサービス提供に深刻な影響を及ぼしています。

ケア労働者の賃金水準は、政府が必要性を認めていたにかかわらず、24年秋闘の年末一時金では大幅な削減回答が相次ぎ、25春闘でも賃上げは進みませんでした。

医療・介護のサービス提供にとっても、医療・介護労働者の暮らし改善にとっても、賃上げは待ったなしの課題です。

先の総選挙で自民・公明政権の議席が過半数を割り込んで以降、政治をめぐる状況に変化が生まれています。また、この度の参議院選挙の結果、自公が衆参で過半数割れとなりました。医療・社会保障を切り捨てる政治から、いのち・暮らしを守る政治に変えていくことが大切です。

日本医労連は、国の医療費・社会保障費を抑制する政策を改めさせ医療・介護労働者の大幅賃上げ、安全安心の医療・介護のサービス提供を実現するとともに、憲法が活かされ、誰もが人間らしく生き、暮らせる社会を築くために奮闘する決意です。共にがんばりましょう。

2025年10月26日

日本医療労働組合連合会
中央執行委員長　佐々木悦子

一般社団法人全国心臓病の子どもを守る会
会長　大澤　麻美　様

全国心臓病の子どもを守る会第 63 回全国大会の開催を心よりお慶び申し上げます。

半世紀以上にわたり、子どもたちの幸せを願う家族・関係者が一丸となっておられる姿には心より敬服を申し上げます。

今後も心臓病のある子どもたちの「いのちの輝き」（QOL：quality of life）を高めるため活動を続けていただきたく願っております。

末筆ながら今回の全国総会のご盛会を願うとともに、貴会の今後のますますのご発展と会員の皆さまのご多幸ご健勝を心より祈念いたします。

2025 年 10 月 1 日

認定 NPO 法人難病のこども支援全国ネットワーク
専務理事　福島　慎吾

一般社団法人 全国心臓病の子どもを守る会の皆様へ

このたび第 63 回全国大会が開催されますことに心よりお祝いを申し上げます。

私どもの「日本心臓ペースメーカー友の会」は、皆様の「守る会」より遅れて 1970 年に創立された患者中心の団体です。心臓ペースメーカーは不整脈の患者さんに心臓の電気刺激を用いて正常に近い拍動を取り戻すもので、1960 年代初期から臨床に使われるようになりました。そのころ私は外科の要請を受けてペースメーカーを手作りして、心室中隔欠損症の手術で完全房室ブロックを起こした患者さんに使われました。幸いその患者さんは一週間で房室ブロックが解消し、ペースメーカーを撤去して、今もお元気で過ごしています。

この患者さんと同じ時に同じ病室に入院していた一人の患者さんはファロー四徴症で、心奇形のうち当時最も難しいといわれていたファロー四徴症の根治手術を受け、幸い手術が成功し、二人の患者さんは親しい友達となり今もお元気で過ごしています。

子供の心臓病ことに心奇形の手術はその後さらに発展し信じられないような重度の奇形があっても生きられるようになったと聞いています。けれども健常者と同じようにはなれず、重い障害が残ることはやむをえないとされることもあるようです。しかしそんな時にも「守る会」は妥協せず、患者の苦しみを真摯に受け止め、解決の道を探索している姿勢を 50 年記念誌で拝見いたしました。そこにはもはや医療福祉の領域を超えた思考が必要となることでしょう。しかしもしそこに解決の糸口を見出したならば、その成果は医療福祉の領域にとどまらず、今日の対立と抗争に満ちた人類社会に真の平和をもたらす鍵となると確信しています。

日本心臓ペースメーカー友の会
会長　戸川 達男